

とうきょうすくわくプログラム

テーマ：身近な自然

対象年齢：



歳児

品川区立台場保育園

設定の理由：台場保育園は、都会でも珍しい自然豊かな保育園です。恵まれた自然環境で子どもたちは虫探しや自然物に触れる姿が多く見られることから、保育園の自然環境を充実させ、子どもたちの好奇心を育み、興味関心をさらに深めていけるようにテーマを設定した。

事例 1

活動名：のびっこガーデンで自然に触れて、虫を育ててみよう

活動のねらい：のびっこガーデンにいる虫に興味をもち、育てる楽しさを知る

用意した環境：アリ・ダンゴムシハウス、虫網、虫かご、たらい

活動内容：のびっこガーデンで虫探しをして、触ってみたり、自分たちで育ててみたりする



子どもたちの様子

のびっこガーデンに出ると草むらやタイヤの下を見に行き、虫やカエルがいないか探している姿があった。雨の日は特にカエルがいるのでは？と子どもたちは思っているようで必死に探しており、見つけるとクラスみんなで触ったり、観察したりしていた。アリやダンゴムシを探して、自分たちで育ててみることで、気付くことが多く、図鑑で育て方を調べたり、何が必要か考えたりと子どもたちなりに思いをもって育てることが出来た。



保育者の振り返りと気づき

普段、遊んでいるのびっこガーデンでどのように遊んでいるか改めてじっくり見ると、子どもたちで工夫して遊んでいる姿が見られた。虫網がないと、手を使ってシジミチョウを捕まえようとしていたり、自分たちで作った虫眼鏡で植物をみたりと楽しんでいる姿に出会えた。アリとダンゴムシを捕まえて、実際に育ててみることで何が必要なのかを考えて、追加したり、調べたりと子どもたちからの発信があり嬉しかった。

事例2

活動名：花の苗を植えて、色水遊びを楽しもう

活動のねらい：花びらで色水が作れるのかやってみて、どんな色になるのか知り、色水遊びを楽しむ

用意した環境：花の苗・透明カップ・すり鉢
すりこぎ・バケツ

活動内容：自分たちで花の苗を植え育てる。
花びらを使って色水を作る。



子どもたちの様子

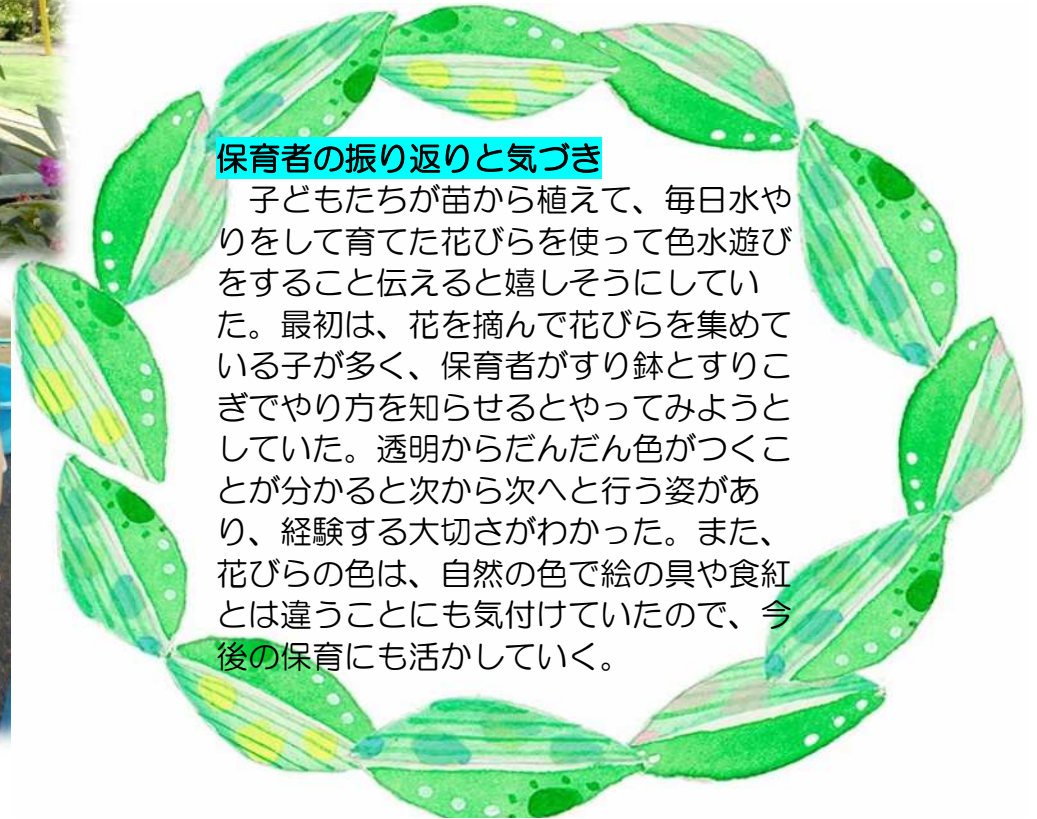
自分で好きな苗を選び、植える。植えた後は当番活動で水やりを行い花がたくさん咲くのを待ち、夏の遊びの一環で色水遊びをする。

花を摘んですり鉢やバケツ、透明カップに入れて、すりこぎでつぶしてみたり、水の上に花を浮かべてみたりする。色が出てくると大喜びで保育者に知らせる。たくさん色水を作り、「じゅーすやさんする」と言って、ごっこ遊びが始まった。1種類の花、何種類もの花とそれぞれが好きな花で色水を作ることができた。どんな色になるか、やってみないと分からないので、驚きと発見を感じる姿があった。



保育者の振り返りと気づき

子どもたちが苗から植えて、毎日水やりをして育てた花びらを使って色水遊びをすること伝えると嬉しそうにしていた。最初は、花を摘んで花びらを集めている子が多く、保育者がすり鉢とすりこぎでやり方を知らせるとやってみようとしていた。透明からだんだん色がつくことが分かった次から次へ行う姿があり、経験する大切さがわかった。また、花びらの色は、自然の色で絵の具や食紅とは違うことにも気付いていたので、今後の保育にも活かしていく。



事例3

活動名：のびっこガーデンで探索を楽しむ

活動のねらい：いつも遊んでいる『のびっこガーデン』で講師の先生と一緒に自然物を使った遊びやどんなところに虫がいるのを知る。

用意した環境：白い不織布

活動内容：慣れ親しんだのびっこガーデンで自然物を使った遊びを知る。



子どもたちの様子

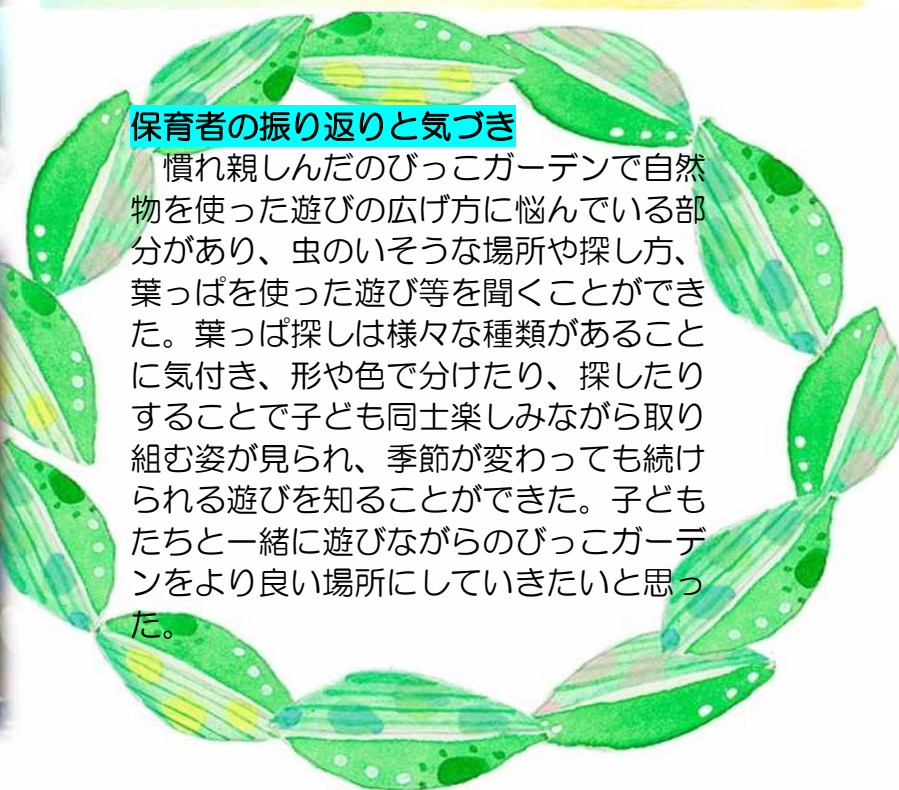
講師の先生にのびっこガーデンでどんな虫や生き物が見つかるのか、何があるのかを教えることを楽しんでいた。

白い不織布を広げ自分が思う一番の葉っぱを選んでくる遊びが始まり、それぞれ好きな葉っぱを選んで見せにきていた。葉っぱが集まってみると色々な形や色があり、同じ形と色ごとで分けてみると種類がたくさんあり驚いていた。最後にどれが良い匂いがするかと聞かれ、恐る恐る匂いを嗅ぐ姿があり、「これが良い匂いがする！」と本日のナンバーワンの葉っぱを見つけてみんなで共有していた。



保育者の振り返りと気づき

慣れ親しんだのびっこガーデンで自然物を使った遊びの広げ方に悩んでいる部分があり、虫のいそうな場所や探し方、葉っぱを使った遊び等を聞くことができた。葉っぱ探しは様々な種類があることに気づき、形や色で分けたり、探したりすることで子ども同士楽しみながら取り組む姿が見られ、季節が変わっても続けられる遊びを知ることができた。子どもたちと一緒に遊びながらのびっこガーデンをより良い場所にしていきたいと思った。



事例 4

活動名：自然豊かな施設に行き、いろいろな植物や生き物に出会ったり、触れたりすることを楽しむ。

活動のねらい：自然教育園で友だちや保育者と一緒に発見をしたり、気づいたことを共有したりして自然に親しむ。

用意した環境：国立科学博物館附属自然教育園

活動内容：国立科学博物館附属自然教育園を探索し、自然を五感で感じる。



保育者の振り返りと気づき

ミッションカードを使って発見を楽しめるようにしたことでポイントを意識しながら探索することができていた。ミッションをクリアした際にはシールを貼るようにし、どんな発見をしたか一人一人と確認することで振り返るきっかけになってよかった。

目で見るだけでなく、触る・嗅ぐ・聴くと様々な視点で自然の面白さを感じることができていた。今回は拾って持ち帰ることはできなかったが、持ち帰ることができる園に帰ってからも見つけたものを使って様々な活動ができるため、場所を変えて継続した経験ができると面白いと感じた。

子どもたちの様子

どんな場所であるのか想像を膨らませながらワクワクした気持ちで現地まで向かっていた。

現地では、施設で用意してあるミッションカードを使い、動物を探したり、森の落とし物を見つけて拾ったり、匂いを嗅いでみたり、水辺にいる生き物を観察したりなどして、いろいろな発見を子どもたちなりにしていた。

木の実の種類は様々あり、似ている形でも赤と紫で色が違い、「同じ種類で色が違う」「形が少し違う」など比べながら違いを考える姿が見られた。

ガマという植物に出会い、綿毛が出ていると触って感触を感じたり、息を吹きかけて飛ばしたりとじっくり関わって楽しんでいた。

